

はじめに

平成25年6月、国は第2期「教育振興基本計画」を策定し、『絆づくりと活力あるコミュニティの形成』を基本的方向性の一つとして掲げました。その中で、現代の社会は家庭環境の多様化や地域社会の変化により、「家庭教育が困難な社会」になっているとし、「豊かなつながりの中での家庭教育支援の充実」を基本施策として位置付けました。今後は、家庭と地域や社会とのつながりをつくるために、教育分野と保健福祉分野の取組の連携・協力により、親子の育ちを一層支援していくことが求められているところです。

すでに県内の各市町村や学校等においては、「家庭教育学級」や「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」等をはじめ、各種家庭教育講座や懇談会など、地域や家庭の教育力の向上のために、様々な学習の場が提供されています。こうした取組は、一定の効果をあげているものの、内容のマンネリ化や参加者の固定化等、いくつかの課題が指摘されています。

こうした状況を踏まえ、県教育委員会では、平成25年度に市町村への家庭教育支援事業として、「親の学びプログラム」活用事業を立ち上げ、5回にわたる検討会議を経て、この「千葉県版親プロ『きずな』」を作成しました。このプログラムは、「つながり」をキーワードに、親の主体性を重視し、体験型・ワークショップ形式を中心とするものとなっており、親同士の心を開き、学び合いを深め、見方や考え方が広がることをねらっています。すでに各市町村や学校で実施を予定している家庭教育学級等だけでなく、乳幼児健診などあらゆる場に活用することで、これまで以上に親同士のつながりを大切にしたい学習の機会を提供することが期待できます。また、家庭と学校や地域のネットワークをさらに広げるためには、こうした学習の場を周知し、より多くの参加を促すための広報の工夫も重要になってきます。そのため、より効果的な広報のあり方についても盛り込みましたので、これまでの広報のあり方等についても振り返り、積極的に活用してください。

これからは、平成22年度から活用を進めてきた「学校から発信する家庭教育支援プログラム」とともに、「千葉県版親プロ『きずな』」が県内の各地で活用され、支援された親が今度は支援する側になるなどの支援の循環が生まれることを期待しています。

結びに、本プログラムの開発にあたり、御指導・御支援を賜りました関係機関の皆様方に心より感謝申し上げます。

平成26年5月 千葉県教育委員会教育長 瀧本 寛